

看護部日記

患者さんから「食べられるのが嬉しいよ」 なったよ」と言われるのが嬉しいです

中央第2-5階病棟は消化

生します。

器科病棟で、食道・胃・肝臓・大腸などの治療目的の患者さんが入院されている病棟です。疾患が消化器なだけに、腹部症状などで十分な栄養が摂れなくなる患者さんが多くいらっしゃいます。十分な栄養が摂れない状態が続

き、さらに身体活動も低下すると、褥瘡（床ずれ）が起きやすくなるといった問題も発生します。そこで当病棟では、医師や看護師、薬剤師やリハビリスタッフ、管理栄養士など、多くの職種で医療チームを編成し、栄養状態を改善する活動と、褥瘡を予防する活動の二つを連動させました。

実際の活動としては、病棟で医療チームによる合同相談会を定期的に行き、一人の患者さんに対して、様々な視点で意見を出し合い、最善の治療計画を立てていきます。看護師は患者さんの一番近くにいる存在なので、検査結果だけでは分からない、日々変化する患者さんの状態を、他職種に速やかに情報提供できるように心がけています。

患者さんが食べやすいように

に食事の形態を変えたり、栄養剤を調整したりと、試行錯誤を重ねる中で、患者さんから「食べられるようになったよ！」と言葉をかけてもらえると、本当に嬉しくなります。また、褥瘡の改善も同時に見られたりすると、栄養状態とのつながりを、より実感できます。

難しいケースも多々ありますが、この活動を通し、病棟で仕事をする数多くの多職種チームワークの良さが、結果的に患者さんの回復につながる事が分かり勉強になります。



これから、たくさんのお力をお借りしながら、患者さんに、よりよいケアが提供できるように頑張りたいです。



中央第2-5階病棟
わたなべ 渡部 ひとみ



中央第2-5階病棟 課長
いち 市原 まさ 之

上司から一言

消化器科病棟は急性期の検査、治療から終末期の緩和ケアまで、様々な患者さんが入院されています。入院している患者さんの中には、栄養状態が悪くなると病状の悪化や褥瘡などを発生することがあります。そこで病棟では積極的に栄養サポートチームと褥瘡予防対策チームが一緒に活動しています。

渡部さんは当病棟に勤務して2年です。病棟では栄養サポートと褥瘡予防対策チームの中心となり活躍しています。どんな時でも患者さんの立場に立ち、笑顔で対応してくれています。

今後もひまわりのような笑顔で患者さんに接し、頑張っ